



宮井和美（公益財団法人札幌市公園緑化協会 モエレ沼公園 学芸員）

モエレ沼公園の学芸員として、初回であるSIAF2014の計画段階から、10年以上継続してSIAFに関わっている。SIAF2024ではモエレ沼公園会場のキュレーターを務めた。

トーク内容

- ・『新しい芸術祭のつくり方』p44～p51<モエレ沼公園>の内容について
- ・Before SIAF2024: 普段のモエレ沼よりも大きな規模の展示を手探りした10年
- ・At SIAF2024: 「未来の運動会」しかない! / 事務局とタッグを組んで雪倉庫に挑戦
- ・情報をなるべく早めに・多めに・いろんな手段で共有するように工夫
- ・初の冬開催は大成功。雪や冬のユニークな出合いができる場に



インタビュー全編はYouTubeでご覧いただけます。
<https://youtu.be/50SulsPbp50>





モエレ沼公園は市内中心部から距離のある場所にありますが、 どのような工夫をしていましたか？

今回は初めての冬開催ということで、地下鉄やJRの駅から遠く離れた札幌市郊外にあり、公共交通機関が1時間に1〜2本程度のバスしかないモエレ沼公園は、特に雪や天候の影響を大きく受けることが当初から想定されていました。雪や交通の問題は防ぎきれないので、緊急時にいかに安全を確保できるかを事前に考えて、関係者間で情報を共有しておけるのが大切なと思います。あとは勝手に会場側だけで判断しないようにしようとも思っていたので、芸術祭事務局や関係する方々と密に細かく連絡を取ることを心がけていました。

芸術祭の準備では、まだオンラインミーティングが普及していなかった2014、2017は、打ち合わせなどで毎回市内各所を行き来する必要があって、結構大変だったように思います。2020以降は、現地確認以外の多くはオンラインで進められたので、大変助かりました。

市内中心部からモエレ沼公園まで、夏だと車で30分程度ですが、冬になると1時間になったり1時間半になったりするわけですね。来場者に限らず、企画者や参加者、アーティストも来られなくなったらどうしよう、という天候への不安は準備の段階から本番までずっと続きました。

幸い2024は、天候に恵まれ、アーティストが来られないということはありませんでした。芸術祭期間中は土日だけ、中心部の未来劇場からモエレ沼公園まで特設バスを走らせていたのですが、それも全部無事に運行されました。これは奇跡的だったかなと思っています。

特に今回は「未来の札幌の運動会」が、会期の最後に開催だったんですが、運動会の前日に大雪が降ったんです。それを受けて、夜中にもかかわらず関係者・参加者に連絡しました。翌日の天候は大丈夫そうだったので、芸術祭事務局の方や運営チームのみんなに「明日は絶対やります!」と(笑)。でも、参加者のみなさんには「危ないからゆっくり来てください。こちらは1〜2時間遅らせてスタートするので、あきらめないで、除雪が終わったらゆっくり来てくださいね」というメールをしました。そうしたら、みんな来てくれました。

当日の進行も、始まってから徐々に人が集まってきても問題ないように、こちらで調整しながら実施しました。運営チームのみなさんも協力してくれたし、芸術祭事務局の人たちも「そういう柔軟な対応でもいいよ」と言ってくれたので、その場での判断が必要な出来事でしたが、いい形になりました。

安全の確保を事前に考えて共有しておくことと、現場で勝手に判断せずに連絡をとること。大雪の日も、夜中でしたが緊急事態として芸術祭事務局の人に連絡して、ちゃんと返信もいただけた。そういう意思疎通を細かくスムーズにできたことで、なんとか無事に開催できたかなと思っています。
